

水産大学校の紹介

須田 有輔

水産大学校 校長

昭和 16 年に設立された朝鮮総督府釜山高等水産学校にルーツにもつ水産大学校は、平成 28 年には国立研究開発法人水産総合研究センターと統合し、国立研究開発法人 水産研究・教育機構の人材育成部門として新たに歩み始めました。水産都市、山口県下関市のキャンパス（図 1）では、本科 837 名、専攻科 50 名、水産学研究科 22 名の学生が（令和 3 年 1 月現在）、明日の水産世界を夢見て、勉学に、課外活動に励んでいます。



図 1 水産大学校キャンパス（講義棟）

教育

水産大学校には、本科、専攻科、および水産学研究科の 3 つの教育課程があります（図 2）。本科は一般大学の修業年限 4 年の学部に対応し、水産流通経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科の 5 学科から構成され、卒業生には学士（水産学）の学位が授与されます。修業年限 1 年の専攻科は、上級の海技士免許の取得を目指して進学する課程です。水産学研究科は大学院の修士課程に相当し、（独）大学改革支援・学位授与機構の論文審査に合格することで、修士（水産学）の学位を取得することができます。

水産流通経営学科

海洋生産管理学科

海洋機械工学科

食品科学科

生物生産学科

修業年限 4年 学士

専攻科

修業年限 1年
海技士免許取得

水産学研究科

修業年限 2年 修士

図 2 水産大学校の教育課程

平成 20 年に日本技術者教育認定機構（JABEE）から、本校の技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしていると認定され（JABEE 認定校）、その後も定期的な審査を受け、現在も認定が継続しています。これに伴い、平成 17 年以降に入学した本校の卒業生には、国家資格である技術士の第一次試験が免除されることとなりました。

本校には、耕洋丸（2,352 トン）と天鷹丸（995 トン）の 2 隻の大型練習船があり、学生の実習や調査・研究、そして教員の研究に活用されています（図 3）。本校の大きな特徴の一つとして、学科や分野を問わず入学したすべての学生が乗船実習を履修し、トロールやはえなわ操業、漁獲物処理、海洋生物調査、海洋観測などを通して水産の現場で求められる基本的な技能を身につけています。

水産庁、機構、漁業団体などの幹部職員による講義、水産庁や機構の職員を希望する学生のためのインターンシップ、機構研究所との共用船である天鷹丸における調査などを通して、水産総合研究センターとの統合効果を教育にも反映させています。

授業以外にも学生は、地元の水族館、自治体、漁業団体、市民団体などが開催する、水産、海洋生物、沿岸環境保全、海岸清掃など多くのイベントに積極的に参加して、教室での学びの成果を実社会に還元しています。

人材育成の実績

熱意ある受験生を確保するため、高校訪問やオープンキャンパスを行い、入試会場も下関以外に東京、大阪、福岡の 3 会場を設けています。また、企業研究会、合同企業説明会、企業訪問、本校在職の水産庁出身職員による公務員セミナー、水産庁や機構研究所等でのインターンシップなどを行い、学生の進路開拓に努めています。その結果、募集定員に対する倍率は 4.7 倍、水産分野への就職率は 84.3%でした（平成 28 年度～

令和元年度平均）。また、専攻科に進学した学生の 2 級海技士の合格率は 85.9%でした。

コロナ禍に見舞われた令和 2 年度は、試行錯誤を繰り返しながら、遠隔・対面を交えたハイブリッド型の授業を実施するなどして教育の質の維持に努めてきました。今後もポストコロナを見据えた新しい水産教育の姿を追い求めていきたいと思ひます。



図 3 実習・研究に活躍する 2 隻の大型練習船（左：耕洋丸 2,352 トン、右：天鷹丸 995 トン）